

# 1/3 of the victims are children



2004年12月26日に発生した津波によって、インド洋沿岸の国々に住む約25万の人々が命を落とし、多くの人々が家を失いました。犠牲者の3分の1が子どもです。

ユニセフは、津波を経験した子どもたちの命を守り、親を失った子どもたちを守り、子どもたちが搾取などの被害に遭わないように、そして早く学校に戻る事が出来るように支援活動を続けています。

## 2004

緊急支援物資の配布が始まりました。  
インドネシアのバンダアチェでは、津波によって多くの人が家を失いました。ユニセフは8,000世帯に、緊急保健キットや衛生用品を配給しました。

12月28日



12月26日 津波で被災した各国それぞれで、ユニセフの現地チームは、津波発生から数時間もたたないうちに子どもやその家族のニーズを調査し、対応しました。緊急支援が始まりました。



12月30日

## 2005

クリントン基金とユニセフは「津波・水と衛生基金」  
を設立。不衛生な水を媒介として伝染する病気を防ぐことを目的に、安全な飲み水と衛生を確保するための活動を行っています。

1月10日



1月7日 ユニセフは、孤児として登録された子どもの親戚を探し始めました。又、搾取の危険にさらされている子どもに安全な環境を提供するための活動も始めました。

